

## ハワイ大学シミュレーション研修に参加して

長崎大学病院救命救急センター 山下和範

ハワイ大学が、シミュレーション教育において、世界有数の施設であることは聞いており、前々から機会があれば見学したいと考えていた。

長崎大学病院では、現時点で、研修医に対して、①心肺蘇生のシミュレーション、②救急外来対応のシミュレーション、また看護師に対して、患者急変時の対応のシミュレーションを行っている。更に、医師、看護師が合同で、院内急変にチームで対応する、メディカルラリーや、救急外来対応を学ぶトリアージ&アクションコースも年に1回開催している。これらのうち、複数回のコースとして行なっているのは、看護師を対象としたものだけであり、研修医に対するシミュレーション教育をコース化するにあたって、どのような方法を取り、またどのようにシミュレーターを使っているか、を学ぼうと、研修に参加した。

多少のハード面の違い(シミュレーション専用の部屋のレイアウトなど)はあったが、ハワイ大学にあるシミュレーターも、当院にあるシミュレーターもほとんど変わりはなく、コースのプログラムに特色があったと感じた。

初日は、不整脈を題材として、主にモニターの判断をするだけで、シミュレーターへの接触はわずかであったが、日を迫るごとに、シミュレーターから所見をとらなければ状態が判断できないような、講義内容、シミュレーション内容になっていった。このように段階的にすることで、シミュレーターの評価にもなれ、モニター所見と併せて、総合的に評価、処置ができるようになっていくと考えられた。

また、座学とシミュレーション、デブリーフィングを適宜織り交ぜながら行なっていくことで、知識と行動がうまく連携していくように感じた。

もう一つ、日常と離れた環境、特に、英語でのやり取りが必要であるという状況が、学習意欲や、充実感を高めているように感じた。

今後、当院でのシミュレーションコース開催を考えると、講師の数や、プログラムの構成、どこで開催するかなどの問題はあるが、比較的早い段階で、提供が可能ではないかと考えた。また、長崎県内にシミュレーション教育を根ざして行く上で、今回参加している研修医らとともに、長崎県内の各施設を訪問し、看護師対象のシミュレーションも行なっていく必要があると感じた。

このような貴重な経験をさせていただき、長崎大学病院、そして何より、新・鳴滝塾に、感謝します。